JSPニュース

2008年 夏

No.63

証券コード：7942

第50期 報告書　平成19年4月1日～平成20年3月31日

代表取締役社長　井上 六郎

JSPニュース　No.63　Contents

社長メッセージ …… 01
特集 …… 03
トピックス …… 05
連結財務ハイライト …… 06
連結セグメント情報 …… 07
要約連結財務諸表 …… 09
要約個別財務諸表 …… 11
JSPカレンダー …… 12
会社情報 …… 13
表紙の写真 …… 14

中期3ヵ年計画「REMAKE
新たなる3ヵ年計画へ向け

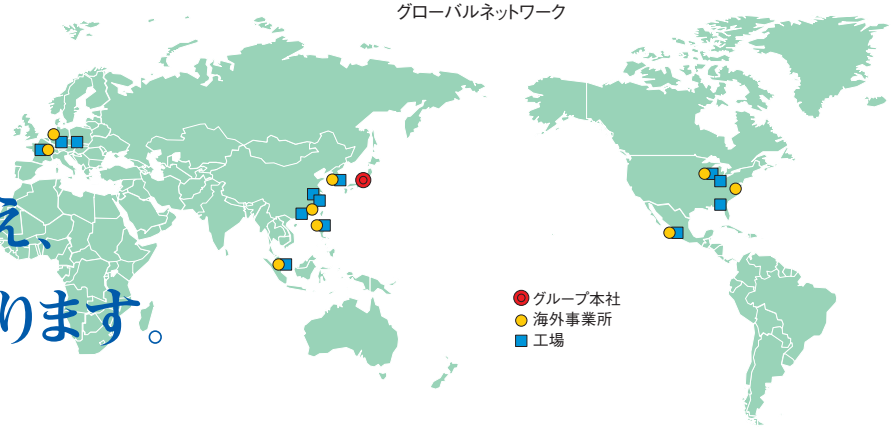
株主の皆様におかれましては、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

当期の世界経済は、中国をはじめとする新興国は高成長を持続したものの、米国のサブプライム住宅ローン問題に端を発した金融市場の混乱によりドル安と株安が進み原油価格の更なる上昇ともあいまって、先進国の経済は総じて減速しました。

国内では建築基準法改定の影響で新規住宅着工件数が減少したことに加え、所得の伸び悩みや消費者物価の上昇などにより、個人消費は低迷が続きました。

発泡プラスチック業界においては、原料・燃料の高騰が度を加え、住宅断熱用資材の需要低迷、消費意欲の減退等により事業環境の好転には至りませんでした。

21」の最終年を迎え、着実に前進して参ります。



当社はこの様な事業環境下にあって、原材料高騰に対応する製品価格是正はもとより、高付加価値製品の販売に一層注力するとともに、鹿沼物流センター設立等により物流費削減に取組むなど、利益の確保に努めてまいりました。また、国内外において用途開発を中心とした新分野への展開に注力しました。

当期の営業成績につきましては、海外での発泡ポリプロピレンのビーズ事業の拡大に加え、原料・燃料価格高騰に対する価格是正がある程度進展し、売上高は前期に比べ4.1％増加しました。また、利益面ではアジア事業の堅調な拡大、ヨーロッパ・アメリカでの利益改善効果および国内での製品価格是正努力により、営業利益は前期比22.6％、経常利益は同15.0％、純利益は同9.8％それぞれ増加を計上することができました。概況は以下に御報告申し上げます。

平成20年度に関しましては、一段の原油価格高騰を背景に原料・燃料の価格上昇懸念があり、各事業での合理化対策継続と、適切なる製品価格是正の努力を継続し、新事業・新製品の開発に注力致します。次の3ヵ年計画へ向けて原油・原燃料価格が更なる高領域に入った状況を踏まえ、製造業の原点に立った諸活動を行い、事業基盤の堅実な見直しを行って参る所存です。

株主の皆様には今後とも変らぬ御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成20年６月

井上六郎

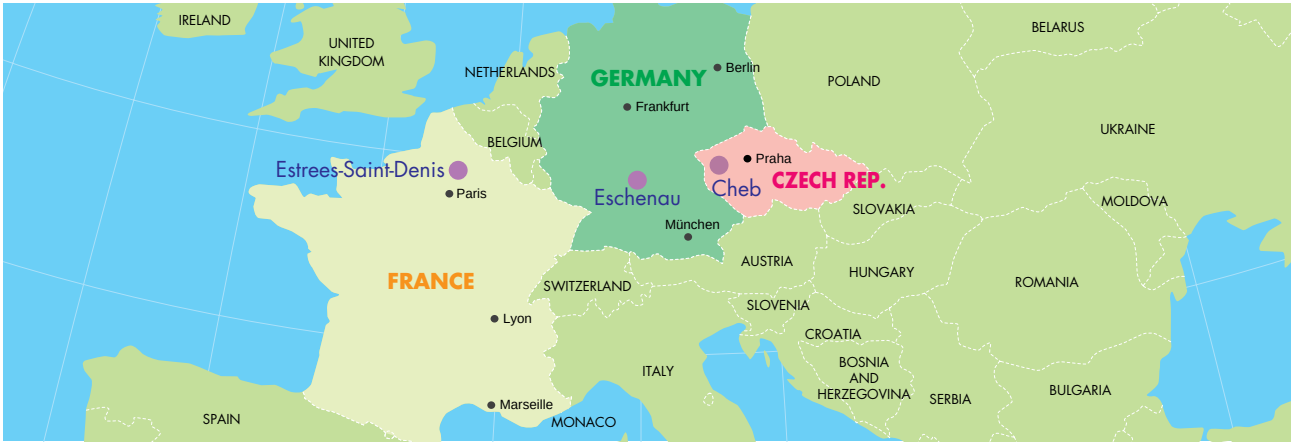
海外事業紹介（ヨーロッパ）

ヨーロッパの子会社であるJSPインターナショナルS.A.R.L社は、フランス・パリ北部のエストレイ・サン・デニス市に位置し、総務・人事・会計等の本社機能を有し、発泡ポリプロピレンビーズの製造、開発、テクニカルサービスを行っています。

2001年には、ドイツ南部のエシャナの成形工場を買収し、Pブロック（欧米では、ARPRO®のブランド名で浸透）成形品の自社生産を開始しました。欧州での、発泡ポリプロピレンビーズの販売は順調に伸びており、生産能力が不足する見込みとなること、中欧・東欧方面の成長が期待されることから、チェコ西部のヘブ市にビーズ工場を建設し、2006年より稼働を始めています。現在のヨーロッパにおける発泡ポリプロピレンビーズの年間生産能力は、約2万トンとなっています。

今日、ヨーロッパにおけるJSPグループの従業員は、約260名に達し、その国籍は12カ国にのぼり、言葉は14言語にもなります。フランス・ドイツ・チェコの生産拠点から、ヨーロッパ諸国だけでなく、アフリカ、中東にも供給しており、現時点で24カ国に販売しております。顧客は、北はフィンランド、東はロシア連邦、西はポルトガル、南は南アフリカ共和国に広がっています。

ヨーロッパにおける発泡ポリプロピレンビーズ市場におい



て、弊社は45%（弊社推定値）のシェアを占め、BMW、メルセデス、フォルクスワーゲン等の自動車メーカーにはバンパーコア等の自動車部品を供給しており、また家電メーカー等には緩衝性能を有する包装資材として、その成形品を供給しております。これらのマーケットでは、継続的に販売ができる保証は無く、次期モデルチェンジにおいても商権を確保できるように、継続的な販売活動が求められます。市場では、常に激しい競争が行われており、競合他社に負けず品質・価格と最上級のサービスで、最大の収益を上げるよう努力しています。

フランス／Estrees-Saint-Denis工場

ドイツ／Eschenau工場

チェコ／Cheb工場

天津トヨタ2007年度優秀サプライヤー賞（原価部門）および安全達成賞 受賞

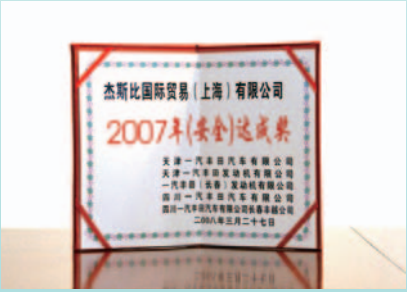
当社の中国での販売会社　杰瓦比（ジェイエスビー）国際貿易（上海）有限公司が、今年3月27日に天津経済開発地区にある天津万麗泰達会議中心（RENAISSANCE TIANJIN TEDA CONVENTION CENTER）ルネッサンスホテルで開催された「2008年　一汽・トヨタ事業体総合サプライヤー大会」において、2007年度天津トヨタ優秀サプライヤー賞及び安全達成賞の2賞を受賞いたしました。

受賞企業代表者整列
天津トヨタ　加藤総経理（左端）
杰瓦比国際貿易（上海）　村田（左から5人目）
天津トヨタ　韓副総経理（右端）

優秀サプライヤー賞は昨年に続き2年連続での受賞となり、記念の盾をいただきました。昨年はトヨタが一汽へ供給する紅旗（マジェスタ）用のバンパー金型費の削減が評価されましたが、今回はカローラ用ドアパッドに使用する副資材の中国国産化とコスト削減という非常に厳しい目標をいち早くクリアしたことが評価されました。現地担当者は中国国産化に必要な技術資料やデータの作成、仕入先やトヨタとの調整、品質管理や不具合発生時の解決などに奔走・尽力し、その努力と成果は特筆すべきものであります。

2007年優秀サプライヤー賞 受賞記念 盾

また安全達成賞は、対象年度内に安全に対し十分な改善活動が認められ、かつ無事故であった取引先に贈られます。トヨタは昨年より、「安全」を品質やコストに加え取引先選定の重要要素としており、独自にサプライヤーの指導を強化しています。今回の当社の受賞は成形委託先である衆通汽車配件有限公司への指導・無事故が評価されたものです。

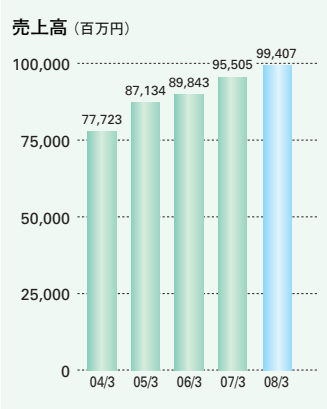


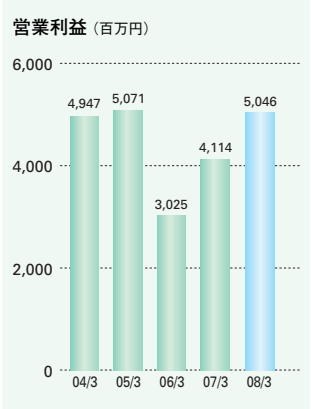
2007年安全達成賞 受賞記念 盾

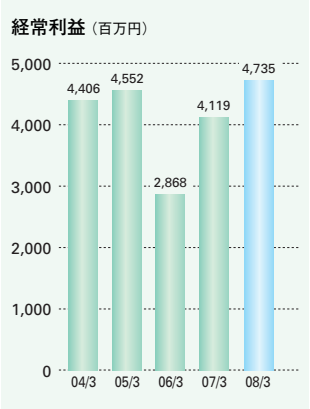
このような評価を得られましたのも現地担当者をはじめとする当社社員や委託先などの努力と活躍の賜物と自負しております。これからも“For the Market（市場ニーズに直結した製品を）”を経営方針に掲げ、常に時代の流れに敏感に、社会に役立つ製品を提案・供給してまいります。

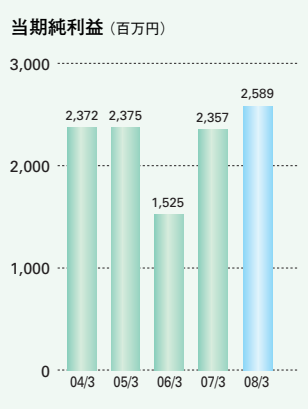
連結財務ハイライト *Consolidated Financial Highlights*

(単位:百万円)	2004/3	2005/3	2006/3	2007/3	2008/3
売上高	77,723	87,134	89,843	95,505	99,407
営業利益	4,947	5,071	3,025	4,114	5,046
経常利益	4,406	4,552	2,868	4,119	4,735
当期純利益	2,372	2,375	1,525	2,357	2,589
純資産	31,423	36,963	40,058	45,989	48,057
総資産	78,631	83,980	88,039	95,178	94,993
(単位:%)					
売上高営業利益率	6.4	5.8	3.4	4.3	5.1
売上高経常利益率	5.7	5.2	3.2	4.3	4.8
売上高当期純利益率	3.1	2.7	1.7	2.5	2.6
(単位:円)					
1株当たり当期純利益	88.53	83.17	49.71	75.76	82.74
1株当たり純資産	1,170.15	1,214.44	1,296.15	1,376.68	1,425.83
(単位:百万円)					
設備投資	4,119	6,113	6,640	7,923	5,743
減価償却費	4,747	4,837	4,656	4,566	4,950

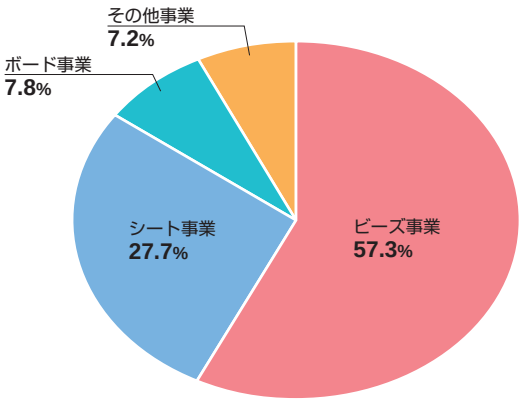




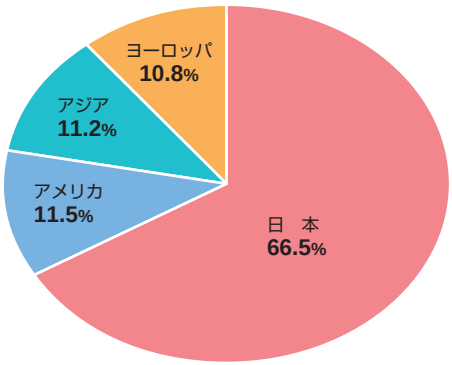




● 事業別売上高構成比



● 地域別売上高構成比



● シート事業

シート事業は、当社売上高の27.7%を占めています。

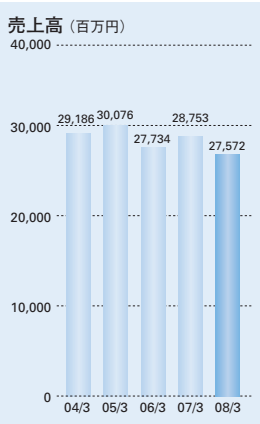
ポリスチレンを原料とする食品用包材「スチレンペーパー」は、製品の軽量化による影響で販売量は前期並みにとどまりましたが、生産設備の合理化効果により利益は改善しました。広告用ディスプレー材や折材に用いられる「ミラボード」は製品価格上昇の影響により販売量が減少しました。産業用包材の発泡ポリエチレンシート「ミラマット」は、永久帯電防止等の独自技術により、薄型テレビ等の画面基板保護用シートとして売上を伸ばしました。発泡ポリプロピレンシート「Pボード」の売上も、帯電防止機能を重視した自動車部品や家電製品の通い函を中心に堅調に推移しました。ポリエチレン気泡緩衝材「キャプロン」は、競争激化により売上高が減少しました。なお、前期の上期まで連結子会社であった日本アクリエース㈱（アクリル系シート「アクリエース」を製造販売）は、持株の一部売却により前下期以降持分法適用関連会社となっております。

この結果、シート事業の売上高は27,572百万円（前年同期比4.1%減）、営業利益は1,163百万円（同2.2%減）となりました。

スチレンペーパー（食品トレー）

ミラマットA（産業用包材／永久帯電防止）

同事業の売上高の推移



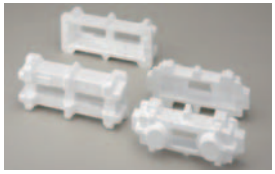
● ビーズ事業

ビーズ事業は、当社売上高の57.3%を占めています。

発泡ポリプロピレン「ピーブロック」は、衝撃緩衝用バンパー芯材や内装材等の自動車部品のほか、IT製品輸送用通い函、家電製品用緩衝材、競技用グラウンド基礎緩衝材等に幅広く用いられ、国内やアメリカ、ヨーロッパ、アジアの世界各地で事業展開を行っています。国内では、原材料価格の高騰に伴う値上げの影響もあり、家電製品等の包装材用途としての需要が減少しました。一方、自動車資材は、社会的な環境意識の高まりによる自動車の軽量化の流れもあり堅調に推移しました。海外では、バンパー芯材以外の自動車部品への展開や、新分野での販売が順調で利益は回復しました。アジアにおいては、中国での事業が引続き好調でした。また、魚箱や包装材、建設土木用資材に用いられる発泡性ポリスチレン「スチロダイア」は、原料であるスチレンモノマーの価格値上げに対する製品価格改定が進み利益は改善に向かいました。

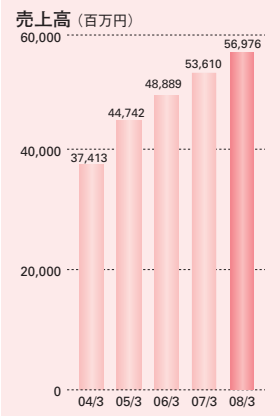
この結果、ビーズ事業の売上高は56,976百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益は5,251百万円（同34.1%増）となりました。

ピーブロック（競技用グラウンド基礎緩衝材）



スチロダイア（電子機器等緩衝材）

同事業の売上高の推移



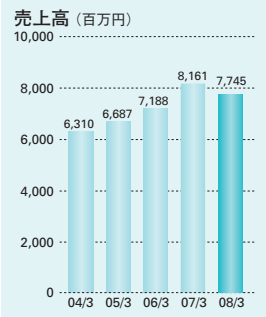
● ボード事業

ボード事業は、当社売上高の7.8%を占めています。

ボード事業の主力製品である発泡ポリスチレン押出ボードの住宅用断熱材「ミラフォーム」は、建築基準法の改定により新規住宅着工件数が減少し、売上及び利益に大きく影響しました。発泡ポリエチレン押出ボードの「ミラプランク」の販売は、トラックの積載品を保護するための緩衝材や、家電・自動車用部品の通い函向けを中心に堅調でした。

この結果、ボード事業の売上高は7,745百万円（前年同期比5.1%減）、営業利益は420百万円（同20.9%減）となりました。

同事業の売上高の推移



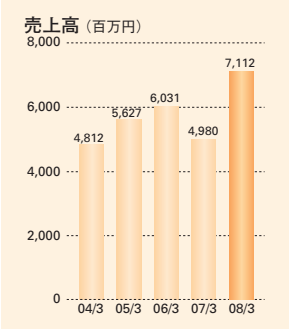
● その他事業

その他事業は、当社売上高の7.2%を占めています。

軽量性、断熱性、遮音性に優れたハイブリッド成形品「スーパーフォーム」は、自動車エアコンダクト用途として売上を伸ばしました。ユニットバス天井材の「スーパーブロー」は、新規住宅着工件数の減少による需要減を補うべく新規用途開発に注力しましたが、販売量は減少しました。一般包材事業は、デジタル家電分野からの需要増を受け、設計力を強みに包装材や衝撃緩衝材分野で売上を伸ばしました。プラスチックリサイクル機器事業の売上は伸び悩みました。

この結果、売上高は7,112百万円（前年同期比42.8%増）、営業利益は2百万円（同98.2%減）となりました。

同事業の売上高の推移



要約連結財務諸表 *Summary of Consolidated Finalcial Statements*

● 要約連結貸借対照表

（単位：百万円）

（資産の部）	当期 2008年3月31日現在	前期 2007年3月31日現在	前期比増減額
流動資産	50,176	49,866	309
現金及び預金	8,557	7,045	1,512
受取手形及び売掛金	29,017	30,577	△1,559
有価証券	0	322	△322
たな卸資産	9,641	9,241	399
その他	3,341	3,065	276
貸倒引当金	△381	△385	4
固定資産	44,817	45,311	△494
有形固定資産	39,493	40,321	△827
建物及び構築物	12,654	12,475	178
機械装置及び運搬具	13,540	14,510	△970
土地	11,484	11,207	276
その他	1,813	2,127	△313
無形固定資産	1,214	768	445
投資その他の資産	4,108	4,221	△112
投資有価証券	2,568	2,872	△303
その他	1,559	1,369	190
貸倒引当金	△19	△20	0
① 資産合計	94,993	95,178	△184

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

（負債の部）	当期 2008年3月31日現在	前期 2007年3月31日現在	前期比増減額
② 流動負債	34,270	37,476	△3,205
支払手形及び買掛金	14,606	16,331	△1,725
短期借入金	6,897	7,933	△1,036
一年以内返済予定の長期借入金	4,730	4,019	711
一年以内償還予定の社債	222	222	—
その他	7,814	8,969	△1,154
固定負債	12,665	11,713	952
社債	384	606	△222
長期借入金	11,062	9,595	1,466
退職給付引当金	364	491	△126
その他	854	1,020	△165
負債合計	46,936	49,189	△2,252
（純資産の部）			
株主資本	44,583	42,298	2,285
資本金	10,113	10,076	36
資本剰余金	13,389	13,352	36
利益剰余金	21,123	18,909	2,214
自己株式	△42	△39	△2
評価・換算差額等	61	686	△624
その他有価証券評価差額金	110	321	△211
為替換算調整勘定	△48	365	△413
少数株主持分	3,411	3,003	407
③ 純資産合計	48,057	45,989	2,068
負債及び純資産合計	94,993	95,178	△184

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

① 資産合計
流動資産は309百万円増加したものの、固定資産が機械装置及び運搬具の減少等で494百万円減少したことにより、資産合計は前年同期比184百万円減の94,993百万円となりました。

② 流動負債
支払手形及び買掛金、短期借入金等が減少したことにより、流動負債は前年同期比3,205百万円減の34,270百万円となりました。

③ 純資産
資本金がストックオプションの行使により36百万円増加したことや利益剰余金が当期純利益の計上等で前年同期比2,214百万円増加したことなどにより、純資産は前年同期比2,068百万円増の48,057百万円となりました。また、自己資本比率は、前年同期比1.8ポイント向上し、47.0%となりました。

● 要約連結損益計算書

（単位：百万円）

	当期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで	前期 2006年4月1日まで 2007年3月31日まで	前期比増減額
売上高	99,407	95,505	3,901
売上原価	73,455	70,259	3,195
売上総利益	25,952	25,246	706
販売費及び一般管理費	20,906	21,131	△225
営業利益	5,046	4,114	931
営業外収益	752	693	59
営業外費用	1,063	689	374
経常利益	4,735	4,119	616
特別利益	61	1,335	△1,273
特別損失	365	952	△587
税金等調整前当期純利益	4,431	4,502	△70
法人税等	1,144	1,397	△253
少数株主利益	697	746	△48
当期純利益	2,589	2,357	231

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 連結キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

	当期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで	前期 2006年4月1日まで 2007年3月31日まで	前期比増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	7,512	5,441	2,070
投資活動による キャッシュ・フロー	△7,877	△6,988	△888
財務活動による キャッシュ・フロー	854	883	△28
現金及び 現金同等物期末残高	5,400	5,099	300

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

④ 売上高
当期の売上高は海外におけるビーズ事業の増収に加え、原料、燃料価格高騰に対する製品価格改定が進展し、前年同期比4.1％増の99,407百万円となりました。

⑤ 営業利益
製品価格の改定が進んだことやヨーロッパ、アメリカの利益改善効果により、営業利益は、前年同期比22.6％増の5,046百万円となりました。

⑥ 当期純利益
以上の結果、当期純利益は、前年同期比9.8％増の2,589百万円となりました。

● 連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

当連結会計年度	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
2007年3月31日残高	10,076	13,352	18,909	△39	42,298	321	365	686	3,003	45,989
連結会計年度中の変動額										
新株の発行	36	36			73					73
剰余金の配当			△375		△375					△375
当期純利益			2,589		2,589					2,589
自己株式の取得				△2	△2					△2
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△211	△413	△624	407	△217
連結会計年度中の変動額合計	36	36	2,214	△2	2,285	△211	△413	△624	407	2,068
2008年3月31日残高	10,113	13,389	21,123	△42	44,583	110	△48	61	3,411	48,057

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

要約個別財務諸表 Summary of Non-consolidated Financial Statements

JSP

● 要約個別貸借対照表

（単位:百万円）

	当期 2008年3月31日現在	前期 2007年3月31日現在	前期比増減額
（資産の部）			
流動資産	29,246	29,288	△42
固定資産	37,250	37,134	116
有形固定資産	22,896	23,386	△489
無形固定資産	596	196	399
投資その他の資産	13,756	13,551	205
資産合計	66,497	66,423	73
（負債の部）			
流動負債	23,375	25,059	△1,684
固定負債	9,904	8,456	1,447
負債合計	33,279	33,516	△236
（純資産の部）			
株主資本	33,138	32,655	482
資本金	10,113	10,076	36
資本剰余金	13,389	13,352	36
利益剰余金	9,677	9,266	411
自己株式	△42	△39	△2
評価・換算差額等	79	251	△172
その他有価証券評価差額金	79	251	△172
純資産合計	33,217	32,906	310
負債及び純資産合計	66,497	66,423	73

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 要約個別損益計算書

（単位:百万円）

	当期 2007年4月1日から 2008年3月31日まで	前期 2006年4月1日まで 2007年3月31日まで	前期比増減額
売上高	55,924	52,707	3,216
売上原価	43,733	41,335	2,397
売上総利益	12,191	11,372	819
販売費及び一般管理費	11,867	11,570	297
営業利益又は営業損失（△）	323	△197	521
営業外収益	1,248	1,091	157
営業外費用	358	282	75
経常利益	1,214	610	603
特別利益	1	1,280	△1,279
特別損失	283	1,188	△904
税引前当期純利益	931	702	228
法人税等	144	475	△331
当期純利益	786	226	560

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 個別株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

当事業年度	株主資本							評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金					
				別途積立金	繰越利益剰余金				
2007年3月31日残高	10,076	13,352	362	8,800	103	△39	32,655	251	32,906
事業年度中の変動額									
新株の発行	36	36					73		73
別途積立金の取崩				△300	300		—		—
剰余金の配当					△375		△375		△375
当期純利益					786		786		786
自己株式の取得						△2	△2		△2
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）								△172	△172
事業年度中の変動額合計	36	36	—	△300	711	△2	482	△172	310
2008年3月31日残高	10,113	13,389	362	8,500	815	△42	33,138	79	33,217

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2008

4

▶発泡スチレンシート工業会会長就任

4月16日、発泡スチレンシート工業会の年次総会において、新会長に当社社長の井上が選任され、就任いたしました。挨拶に上がった井上は「PSPが食品容器として使用されて46年。厳しい事業環境下だが工業会設立の趣旨に戻り、消費者の正しい理解が得られるように努力する。“空気が主役！エコフレンドリーPSP”をキャッチフレーズに、安全性・機能性を積極的にアピールしていく」と述べ、2年の会長としての任をスタートしました。

▶JSP取引先持株会理事会開催

4月22日、JSP取引先持株会が開催され、平成19年度事業報告書の案件が承認されました。

▶決算発表

4月28日、東京証券取引所に平成20年3月期決算の報告を行い、対外発表いたしました。

5

▶「剰余金の配当に関するお知らせ」を発表

5月12日、平成20年3月31日を基準日とする剰余金の配当につき、1株当たりの期末配当を予想通り8円とすることを発表いたしました。これにより中間配当と合わせた年間配当は、前期に比べ2円増の14円となります。

＜配当内容＞

	決議内容	前期実績（平成19年3月期）
基準日	平成20年3月31日	平成19年3月31日
1株当たり配当金	8円	6円
効力発生日	平成20年6月30日	平成19年6月29日
配当原資	利益剰余金	利益剰余金

＜年間配当内訳＞

	1株当たりの配当金（円）		
基準日	中間期末	期末	年間
当期実績	6円	8円	14円
前期実績（平成19年3月期）	6円	6円	12円

▶「日本経済団体連合会」に入会

5月20日、経団連に入会が認められました。

6

▶決算説明会

6月3日、如水会館において、アナリスト・ファンドマネージャーに対し平成20年3月期決算の説明会を開催いたしました。

▶定時株主総会開催

6月27日、定時株主総会を開催いたしました。

会社概要

商号	株式会社JSP
所在地	本社　東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
事業内容	発泡プラスチック、 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、 土木･建築工事の設計･請負および管理
設立	1962年（昭和37年）1月
資本金	101億13百万円
決算期	3月
従業員数	626名（男529名・女97名）出向者除く 連結2,145名（国内1,115名・海外1,030名）
事業所他	6営業所、11工場、2研究所
主要関連企業	国内11社、海外22社

大株主

株主名	株数（株）
三菱瓦斯化学株式会社	13,212,982
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	2,244,100
三菱化学株式会社	1,234,220
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,209,200
JSP取引先持株会	974,324
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	901,524
ジェーピーモルガンチェースバンク385078	612,400
資産管理サービス信託銀行株式会社（年金信託口）	525,900
JSP従業員持株会	461,474
シービーエヌワイデイエフエイインターナショナルキャップバリューポートフォリオ	322,700

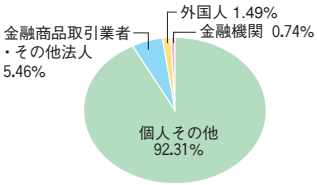
株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主配当金	毎年3月31日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主又は登録質権者に支給するものとする。
中間配当	実施する場合には、毎年9月30日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主又は登録質権者に支給するものとする。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社　全国本支店 野村證券株式会社　全国本支店
郵便物送付先 および電話照会先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 電話：0120-707-696（フリーダイヤル）
単元株式数	100株
公告掲載新聞名	東京都において発行する日本経済新聞
上場証券取引所 コード	東京証券取引所第一部 7942

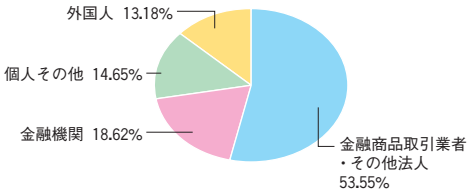
株式の状況

発行可能株式総数	46,000,000株
発行済株式の総数	31,372,473株
株主数	5,182名

株主数別分布状況



株式数別分布状況



「オーセールの中心街」

ブルゴーニュ地方　フランス

撮影・文
清 水　準 一（写真家）

オーセールはパリから南東へ車で約2時間、ブルゴーニュ地方では大きな街の一つですが、日本では馴染みのない街です。しかし、隣接するサンスはシーザーがこの地方を征服する以前から鉱泉のある保養地として知られていましたし、フランスの白ワイン「シャブリ」の生産地シャブリ村もすぐ近くです。巡礼路にあるヴェズレーやオータンなどは、ロマネスクの古刹のある地として日本でもかなり詳細に紹介されていますが、オーセールもキリスト教文化の点でも前者に劣らず、フランス最古のフレスコ画はこの街のサンテティエンヌ大聖堂すぐ側のサン・ジェルマン修道院にあります。

オーセールはヨンヌ河沿いにあり、橋の上から見た光景（右上部写真）には驚嘆しました。豪華遊覧船・ゴシックの大聖堂・瀟洒な家並みなど「絵」そのものです。

サンテティエンヌ大聖堂は聖人エティエンヌに奉献されたもので、聖人はエルサレムでユダヤ教徒により石打ちの刑で惨殺された最初のキリスト教徒だそうです。大聖堂建設に着工したのは13世紀頃だそうですが、完成は1560年です。この頃が一番活気のあった時期らしく、表紙写真の右側の時計塔も15世紀に建設されたそうです。時計塔のアーチの向こうに見える赤い家はこの地方の木骨組みという家屋で、鉄筋の代わりに木を使ったのだそうです。防腐剤として赤い塗料を使い宣伝をかねてデザイン化され目立っています。一寸見にくいのですが、時計塔に隣接している家も木骨です。街のデザインとして、あちこちに木像が飾られています。この写真の右側にある長身の優雅なご婦人像をはじめ、アンティークなものユーモラスなものなど色々です。また食事も美味しく、なかでも憧れのシャブリがお手頃な値段で、しかもたっぷり味わうことができ満足でした。シャブリは白ワインとしては超有名ですが、生産地であるシャブリ村は眠るように静かな村だそうで、心引かれた撮影ポイントなのですが、時間が無かったために訪れることが出来ず残念です。

本社・事業所一覧

Network

本　社			☎
	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-4-2（新日石ビル）	03-6212-6300

営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1（サンメモリアビル）	011-231-2681
仙台	〒984-0817	仙台市若林区堰場12-5（ソレアード舟丁）	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6（桜通大津第一生命ビル）	052-962-3225
大阪	〒541-0048	大阪市中央区瓦町3-1-4（トーア紡ビル）	06-6202-3775
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17（五幸ビル）	092-411-6854

出張所			
広島	〒731-5133	広島市佐伯区旭園3-33（清水ビル）	082-943-6733

工　場			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
鹿沼第四	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂字北野2626-3	0289-60-3305
鹿沼第五	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町6-1	0289-76-3211
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町字扇廣1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
九州	〒861-0111	熊本県鹿本郡植木町宮原553	096-274-7101

研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

発行　株式会社 JSP
東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル
IRグループ　TEL.03-6212-6306　FAX.03-6212-6302
ホームページ　http://www.co-jsp.co.jp

PRINTED WITH SOY INK
古紙配合率70%再生紙
この印刷物は70%古紙再生紙と
植物性大豆インキを使用しております。